府立枚方高等学校
校 長 松浦　正明

平成 30 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。

１．学習指導・進路保障体制の一層の充実により、**「生徒を伸ばし、伸びいく学校」**をめざす
２．主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、**「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」**をめざす
３．自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、**「グローバルに考え、行動する学校」**をめざす

２　中期的目標

【次なる 50 年に向かって颯爽と】

→　平成 24 年に 50 周年を迎えたことを踏まえ、これまでの伝統の継承・さらなる発展と、より多くの「颯爽」たる若者（枚方高校校歌の一節「颯爽たり 枚方」に因む）を育てていくことへの決意を込めて、これを合言葉としたい。

１　「生徒を伸ばし、伸びいく学校」の実現に向けて

(1) 生徒一人ひとりが、自己実現を果たしていくために必要な「確かな学力」を身に付けることができるよう、全教員の「授業改善」に取り組む。

・各教科において**一層明確な「学習到達目標」を設定**し、「枚高マップ」をもとにした「教科スタンダード」を作成してきた。今後、新たに作成した指導と評価の年間計画（シラバス）の中で、評価の観点の趣旨と評価方法設定を進め、観点別評価に対応できるよう努めていく。また、次期学習指導要領の改訂に向けた準備を行う。また、平成 29 年度入学生から「総合的な学習の時間」を各学年に配当し、新カリキュラムを意識した主体的な学びを構築していく。

・ＩＣＴの積極的活用の推進等を含めた**「今後における新しい授業のあり方」についての校内研修をさらに充実させ、**学校全体の取組みに発展させる。この取組み等により、**2020 年度までに、**学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における**「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率を 75%以上に**（H29 年度 69%）するとともに、授業アンケートにおける**満足度を 3.10 以上に。**（※ 「満足度」とは、授業アンケート「問８ 授業内容に興味・関心を持つことができた」及び「問９ 知識・技能が身に付いた」についての全教員の評価平均（４点満点）、H29 年度７月調査 3.10　12 月調査 3.12）

(2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。

・最後まであきらめずにチャレンジする生徒を育てることにより、**2020 年度には現役生の国公立大学合格者を 10 人以上に**（H29 年度３人）。
・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における**「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を 2020 年度には 75%以上に**（H29 年度 68%）。
・**キャリア教育・人権教育・国際理解教育等を３年間で体系的に実施**できるよう、平成 29 年度入学生から、「総合的な学習の時間」を抜本的に改善。
・生徒の表現力を高め、創造力をより豊かなものにしていくため、教科を問わず**読書指導を推進**する。

２　「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて

(1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。

・学校行事については、生徒の主体的な取組みを一層支援し、自己診断における**「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率 90%以上を達成し、維持していく**（H29 年度は 80%）。
・**部活動加入率について、2020 年度度には 80%以上を達成するとともに、一層の増加をめざす**（H29 年度５月調査 73%）

(2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる。

・**遅刻者数について、年間 1,000 未満を維持するとともに、一層の減少に向けて、指導を継続**していく。（H29 年度 644）
・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導の充実、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。

３　「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて

(1) グローバルな人材を育成するため、英語の４技能を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。

・大学等の協力を得て、**英語暗誦弁論大会を充実させ、「イングリッシュキャンプ」等の取組みを継続的に実施できる環境を整備**する。
・英語検定、TOEIC 等の受検を推奨するとともに、それに向けた準備講習等を計画的に実施するなどして、**本校在学中に英検２級に合格する生徒の数を 2020 年度には 40 人以上に**（平成 29 年度卒業生 33 人）。新たなる国際教養科の内容の充実と、魅力を高めるための工夫の検討を行う。

(2) ユネスコ・スクールとしての取組みを更に充実させるとともに、国際交流・異文化理解教育の活性化を図り、世界規模で考え、行動できる人材を育成する。

・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、テーマに応じて生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう、推進していく。

４ 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備

(1) 学校トータルとしての広報活動を立案・実施する機能の強化。

・**渉外・広報に関する校内組織を一層強化**。本校の魅力や入学者選抜におけるアドミッションポリシー等、必要な情報を積極的に発信していくため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や学校ＨＰの計画的な更新等を進めていく。

(2) 教育環境の整備とエコ対策の強化を図る。

・**学校として短焦点プロジェクターやタブレットＰＣの活用を推進する**とともに、次世代のスタンダードとなる教育施設・設備を導入できるよう つとめる。
・**ペーパーレス環境の一層の推進**に向けて、校内における連絡体制や各会議のあり方等を見直していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成 30 年 12 月実施分］

生徒アンケートは昨年より肯定率が上昇した項目が多く、生徒が積極的に学校活動に取組んでいることが反映されている。保護者アンケートの肯定率は少し低下。授業や学校施設、学校教育全般についての意見の他、地震や台風など緊急時への対応や安全確保や連絡についての意見があった。概ね生徒保護者の理解を得ており、引続き生徒を伸ばす取組みと充実した教育活動ができるよう取組んでいきたい。
（※今年は、一部質問項目を整理し変更しました。）

１．概況（昨年度から改善した項目数）「◎」「○」「△」は数値またはその変化に対する学校の評価
・生徒…34 項目中 29（85%）　・保護者…34 項目中 14（41%）　・教員…52 項目中 22（42%）

２．学校（または組織）に対する意識　（肯定率(%) H29 → H30　以下同じ）

・生徒（学校に行くのが楽しい）	81.0 → 81.2	（○）
・保護者（子どもは学校へ行くのを楽しみに）	85.9 → 84.7	（△）

※ 「国際交流の取組みが活発」93.5%(+7.7)など、特色ある学校の魅力を発展させる必要がある。

３．学習指導等

・生徒（わかりやすく楽しい授業が多い）	61.3 → 64.1	（◎）
・〃（授業で考えをまとめたり発表する機会がある）	75.9 → 85.1	（◎）
・保護者（授業がわかりやすく楽しいと聞く）	63.8 → 64.7	（○）
・教員（教員は授業の指導法について、工夫・改善）	87.9 → 94.6	（◎）

※主体的で深い学びなど生徒の興味・関心を高める授業が増えるとともに、教え方に工夫している先生が多い 75.0%（+5.9）など、ICT の活用や授業改善の取組みが進んできている。

４．生活指導等

・生徒（学校は生活規律等の確立に注力）	82.2 → 85.9	（◎）
・〃（先生はいじめについて真剣に対応）	78.4 → 82.0	（◎）
・保護者（いじめや暴力のない学校づくり）	93.1 → 93.7	（○）

生徒：「人権教育を学ぶ」93.1%(+7.4)、「進路・生き方を考える機会がある」90.4%(+0.4)、教員「いじめに迅速に対応できる体制がある」84.2%など、年間計画に基づいた特別活動や「総合的な学習の時間」の成果がうかがえる。相談しやすい体制づくりなど、支援体制をより充実させたい。

５．地域連携・広報等

・保護者（学校は教育情報の提供に努力）	83.2 → 79.9	（△）
・〃（ホームページは役立っている）	69.0 → 70.8	（○）

※ 「緊急時の連絡が遅かった」との意見があり、緊急時の対応を見直し新たに徹底した。その結果、生徒「緊急時の行動が知らされている」80.9%(+14.4)と数値が上昇した。

学校運営協議会からの意見

委員構成６名（大学准教授、会社役員、中学校長、小学校長、保育所長、ＰＴＡ会長）

○第１回（6/25）「H30 年度学校経営計画について」「教科書選定」
・生徒支援委員会の取組み、生徒サポート体制について
・アクティブ・ラーニングなどの授業の取組み、研修、授業公開について
・授業アンケートを通じた教職員の授業改善の取組み
・勉強と部活の両立を促す指導、部活動顧問の役割などについて
などの質問を通じて、学習支援や生徒支援、授業改善を学校全体で早期に取組む事を期待する意見があった。

○第２回（11/19）「授業参観と授業アンケートについて」
（1 年「書道」、2 年「国語」、3 年「CLPS」などの授業を見学）
・授業アンケートの取組みと結果について・・・・概ね良好で、授業改善につなげている。
・教員の授業相互見学について・・・・延べで 60 名ほどが参加。ワークシート（感想・意見）を授業担当者に渡すなどしてスキルアップにつなげている。
・学習指導要領の先行実施についての取組み・・・・資質・能力の育成に必要な授業改善や「総合的な学習の時間」を通じて学力の３要素の育成をめざしている。次年度から「総合的な探究の時間」「道徳教育」「消費者教育」が先行実施となる。
・ボランティア活動に取組んでいるか・・・・地域清掃や淀川のマラソン大会への協力、献血 PR 活動などを生徒会が呼びかけ、実施している。今後、力を入れる必要がある分野。

○第３回（1/28）「１年間の総括」
・将来構想委員会の活動である、「授業公開」「ICT 化の推進」などをより発展させて、より良い授業ができるよう、さらに工夫してもらいたい。
・授業改善は、生徒の「学びに向かう力」を育成することが今後の課題である。
・教職員は「学校経営計画」を十分認識していないのでないか。教員向け自己診断の提出率を上げてより意向をもっと反映させ、重要な指針であることをもっと認識するべき。
・現状の学校教育自己診断の回答選択肢から「肯定率」として判断することは、結果の「ヤマ」がわかりにくい。より丁寧な実施と分析をする必要がある。
・英語外部検定は費用が安くなく、保護者負担増となるため、配慮する必要がある。

府立枚方高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
１「生徒を伸ばし、伸びいく学校」の実現	(1)全教員の授業力向上	ア 観点別評価の導入を進め、指導と評価の一体化をめざす。次期学習指導要領の内容について理解し、改訂に向けた準備を始める。 イ 授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、改善に向けて取り組む。 ウ 教員相互の授業見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を増やす。ICT 機器の活用やグループ学習など工夫し、主体的・対話的で深い学びを推進し、魅力的でわかる授業をめざす。	ア 次期学習指導要領の改訂に向けた新カリキュラム検討を準備。 イ 授業アンケートにおける「満足度」の向上(H29 年 12 月実績 3.12) ウ 自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を 75%以上に（H29 年 69.1%）	ア 次年度先行実施する新学習指導要領の導入準備と新カリキュラム委員会の概要を決定。次年度から検討を開始する。(○) イウ 授業アンケートにおける「満足度」は昨年とほぼ同じ（H30 年 12 月実績 3.12）であるが、ICT 機器の活用やグループ学習など、授業の工夫により、自己診断「教え方に工夫･･･」の肯定率が目標の 75.0%に達した。(○)
	(2)夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア 適切な時期を見定めて、「転換期指導」を充実。（「入学当初の中学生から高校生への転換」、「受験生への転換」等） イ 家庭学習を含め、今後における学習指導のあり方について、授業力向上ＰＴを中心として検討・実践を進めていく。 ウ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を積極的に活用するため、特に節目となる時期の模試については、より多くの生徒の受験を促す。また、各担任の進学指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。学習到達目標に合わせた学習指導と進路指導を共有化する。(教科スタンダードの活用) エ 「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」学年会等での情報共有を密にし、個別の課題等を抱える生徒の支援体制を充実。ＳＣ、関係外部機関との連携、いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施および面談の充実を行う。 オ キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向けて、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承･発展させるとともに、「総合的な学習の時間」を見直し、新たなカリキュラムとして実践する。(1 年・2 年で改善) カ 学校として読書活動の推進に取り組む。	ア～ウ 「学力生活実態調査」における生徒の家庭学習時間を平日、休日とも平均 60 分以上に（H29 年１・２年平均平日 49 分、休日 73 分）また、同調査における「Ｂ２ゾーン」以上の生徒割合を２年生（２回目）で 50%以上に（H29 年 41%）以上の成果として進学実績を向上させ、現役生国公立大７人以上かつ関関同立80 人以上の合格をめざす（H29 年３人、76 人） エ 自己診断（生徒）「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を 70%以上に（H29 年 68.2%） 「相談できる先生がいる」の肯定率を 63%以上に(H29 年 60.6%) 「いじめについて真剣に対応」の肯定率を 80%以上(H29 年 78.4%) 自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率を 90%以上に(H29 年 88.8%)「いじめや暴力のない学校」の肯定率を 95%以上に(H29 年 93.1%) オ自己診断「将来の進路や生き方、人権について学ぶ機会がある」の肯定率の向上（H29 年 90%、86%） カ 自己診断（教職員）「学校として読書指導に取り組む」の肯定率を 60%以上に（H29 年 33%）	アイ「学力生活実態調査」における生徒の家庭学習時間は平日 42 分、休日 64 分と減少した。２年Ｂ２ゾーンの生徒割合は 39.7%と昨年を少し下回ったが、1 年生は昨年を上回っている。やはり２学年進級後の指導が大きな課題である。(△) ウ 国公立大については４人、関関同立は 59 人となり、定員の厳格化による難化の影響があった。(△) エ 自己診断「悩みや相談に･･･」の肯定率は 74.7%(+6.5)と向上するとともに、「いじめについて・・」の肯定率も 82.0%（+3.6)と昨年を上回った。(◎) 自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率は 88.0%(-0.8)、「いじめや暴力のない学校」の肯定率は 93.7%(+0.6)とほぼ横ばいであり、より安心して通える学校になるよう、今後も取組みたい。(△) オ 自己診断「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」は 90.4%(+0.4)「人権について学ぶ機会がある」は 93.1%(+7.1)と向上。１・２年生の「総合的な学習の時間」で生き方あり方を考える機会が多かったためと考えられる。(◎) カ 自己診断（教職員）「学校として読書指導に取り組む」の肯定率は 21.1%(-11.9)と低下、読書離れの改善はできていない。(△)
２「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1)学校行事の充実、部活動の活性化	ア 学校行事及びクラブ活動・生徒会活動の活性化を推進し、生徒の自尊感情の高揚を図る。 ・「ノークラブデー」など限られた時間を有効利用したクラブの活性化と学習との両立。 ・文化祭・体育祭を、企画から運営まで、可能な限り部活動生徒等に担当させる。 ・あいさつ運動、エコ運動、ユネスコ・スクールとしての取組み等について、生徒会と関係クラブ等が連携できる体制を構築。	ア 部活動加入率を３ポイント以上増（H29 年 73%） 自己診断「学校に行くのが楽しい」肯定率 85%以上（H29・81%） 自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率を 90%以上に（H29 年 80%）	ア 部活動加入率は 74.5%（+1.5）であるが、どのクラブ活動も熱心に取り組んでおり、自己診断「学習と部活動の両立ができている」(H29・63.4%→H30・75.4%と向上)。自己診断「学校に行くのが楽しい」81.2%(+0.2)、自己診断「文化祭・体育祭・・・・」の肯定率も 84.5%(+4.5)と充実した学校生活を過ごしていることがうかがえる。(△)
	(2)生活規律を確立させる取組み	ア 生活規律を重視する指導を明確化し、生徒・保護者の一層の理解を得るとともに、教員間の組織体制の充実。規則の再確認。 ・遅刻指導、服装指導、頭髪指導の継続 ・交通安全指導の充実 ・ＳＮＳの正しい理解	ア 年間総遅刻者数1,000人未満維持（H29年度644人） 自己診断「指導に納得・共感」の肯定率向上（H29年生徒67%、保護者84%） 「教員組織的対応」85%以上	ア 今年度も日々の登校指導、生徒の努力もあり、年間総遅刻者数は 638 人であり、1,000 人未満を維持することができた。(○) 自己診断「指導に納得･共感」の肯定率は生徒 66.5%(-0.5)、保護者 82.4%(-1.6)、生徒「教員組織的対応」は 85.7%であった。(△)
３「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1)英語４技能の育成と「使える英語力」の伸長	ア 英語力４技能の育成と、英検等、外部検定受験に向けた「使える英語力」向上のための研究（指導法の改善、ICT 機器の活用等）を進める。 イ国際教養科ならではの取組みを再検証した上、カリキュラムの改善を進める。	ア・イ 英検等、外部検定の合格者数の増加（H29 年度卒業生の在籍期間における２級合格 33 人、準２級合格 53 人） イ国際教養科の教育課程の改善。	ア H30 年度卒業生の英検合格者については、２級 27 人、準２級 49 人であった。今年度は夏にイングリッシュキャンプを実施し、約 30 名が参加した。英語暗誦弁論大会やｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙの参加を通じて英語の４技能の育成に努めた。(○) イ今後、国際教養科の改編にあわせて、新しいカリキュラムを策定する。
	(2)ユネスコ･スクールとしての取組みの充実・国際交流活動の活性化	ア 海外修学旅行及び海外語学研修のさらなる充実、学校交流の推進。旅費の効率的な執行。 イ ユネスコ・スクールとしての活動を一層充実させるとともに、適切に情報発信。 ウ 異文化理解の推進に向けて、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。	ア 事後のアンケート結果等の分析（修学旅行アンケート：全体評価 H29 年・93%） イ・ウ 大学・地域等と連携した取組みの継続、充実。 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率 90%を維持(H29 年 87%)	ア 今年もオーストラリア語学研修を実施し、成果を報告書にまとめた。また、台湾修学旅行を継続し、有意義な国際交流ができた。事後アンケートでは 97%が有意義であったと回答（◎） イ・ウ 今年は６月９月に海外からの学校訪問があり、自己診断「国際交流活動が活発」93.5%(+6.5) 英語暗誦弁論大会では３大学から４名の審査員に来ていただき指導を受けるなど、連携を継続。(◎)
４ 教員組織体制強化と環境整備	(1)広報活動の一層の充実	ア 広報に関する業務を分掌機能の中に明確に位置づけることで、学校トータルとしての広報機能を充実。Web ページの刷新を行う。 イ 学校説明会の一層の充実及び中学校等が主催する進学説明会への積極的参加を推進。 ウ 「枚高メルマガ」「ブログ」等の活用により、保護者への情報発信を一層充実させる。	ア・イ 志願者の確保（H30 年度選抜の志願倍率 1.33 倍） 学校説明会の参加者数 1,200 人以上を維持（H29 年は約 1,500 人） ウ 自己診断「枚高メルマガは役立っている」の肯定率向上（H29 年 76%）	ア・イ H31 年入学者選抜では８クラス募集で、志願願倍率が 1.21 倍となり、志願者を確保できた。(○) 学校説明会は例年どおり 10 月に２回実施し､約 1,450 人の中学生保護者が来校した。(○) ウ 自己診断(保護者)の「枚高メルマガは役立っている」の肯定率は発信が減少したこともあり 65.6%であったが、Web ページを一新し充実に取組む。(△)
	(2)教育環境のさらなる改善・充実	ア ＩＣＴ機器の充実、授業での活用の工夫。 イ 会議室でのプロジェクター活用、校内イントラネットの活用促進などで、ペーパーレス環境を一層推進。	ア ＩＣＴ機器の活用による授業改善を行う。(ICT 活用：88.1%) イ 職員会議を原則としてペーパーレス化。資料を事前に S ドライブに入れ、予め閲覧できるようにすることにより会議短縮を図る。	ア 授業でのＩＣＴ機器の活用が増加。普通教室で使用できる移動式プロジェクターを整備し 10 台に増やした。自己診断：教員の活用 94.4%(◎) イ 職員会議の配付資料を減らすよう努力。視聴覚室で会議を開催することとし、大型スクリーンを整備、スライドを使って説明できるように改善して会議の時間短縮をめざしている。(○)